

# For the Next 50 years

2011年10月1日(土) 名古屋大学豊田講堂

## ■ 記念講演

15:15~15:55

### 「東日本大震災:初動期の活動について」

地震発生直後に指揮官として緊急態勢をとり、いち早くヘリを飛ばすと、大津波が目前に現れ、過去最大規模の大災害となることを直感した。沿岸を走る国道45号線が寸断されて孤立する三陸被災地へ内陸から「くしの歯」状に道路を啓開するなど、矢継ぎ早に方針を打ち出し復旧・救援に当たった体験を語る。



国土交通省  
東北地方整備局長

徳山 日出男  
TOKUYAMA Hideo

1979年東京大学工学部卒業・建設省入省、アメリカ合衆国道路庁国際研究員、関東地方整備局道路部長、道路局企画課長などを歴任、2011年より現職。

## ■ パネルディスカッション

16:00~17:20

### 「統合技術文化の形成と国際共有への土木工学の展開」

最近、インフラ輸出の重要性が認識されるようになった。しかし、他国とのビジネス競争が前面に出すぎてはいないか？ わが国のインフラ技術の、世界に通用する普遍的な価値は何か？ それは、長大橋や新幹線などの優れた要素技術と共に、設計者から現場の作業員に至るまで貫かれた、安全で精度良く、丁寧につくり上げようとするスピリットとチームワークに裏打ちされた文化にまで高められた統合技術であり、これこそ多くの国に共有される価値である。その価値、途上国ニーズと移転の可能性について討議する。



コーディネーター  
林 良嗣  
HAYASHI Yoshitsugu  
名古屋大学大学院環境学研究科 教授  
交通・都市国際研究センター長

1974年:名古屋大学工学部土木工学科卒業、1979年:東京大学大学院工学系研究科修了(工博)、東京大学講師、名古屋大学助教授などを経て1992年:名古屋大学教授、2003年:総長補佐、2006年:環境学研究科研究科長。世界交通学会理事・學術委員長、土木学会副会長



パネリスト  
山本 卓朗  
YAMAMOTO Takuro  
土木学会  
会長

1964年3月:東京大学工学部土木工学科卒業、1964年4月:日本国有鉄道入社、1994年6月:東日本旅客鉄道常務取締役開発発事業本部長、2000年7月:東京圏駅ビル開発株式会社社長、2002年7月:鉄建建設株式会社社長、2008年6月:鉄建建設株式会社特別顧問



パネリスト  
野津 光夫  
NOZU Mitsuo  
(株)不動テトラ建設本部国際部  
部長

1984年:名古屋大学大学院博士前期課程修了、1984年:不動建設株式会社入社、1985-1988年:サウジアラビアヤンプ工事赴任、1989年以降:地盤改良の設計、技術開発部門、2004年以降:国際部として、ベトナム、米国での地盤改良工事の営業・技術担当



パネリスト  
西村 政洋  
NISHIMURA Masahiro  
アジア開発銀行東南アジア局  
交通専門家

1990年:名古屋大学工学部土木工学科卒業、1992年:名古屋大学院博士前期課程修了、1996年:米国MIT大学院都市計画修士課程修了、1992年:建設省(現国土交通省)入省後、河川局、道路局、近畿地方整備局、外務省国際協力局などを経て、2009年8月より現職



パネリスト  
水谷 法美  
MIZUTANI Norimi  
名古屋大学大学院工学研究科  
副研究科長・教授

1983年:名古屋大学工学部土木工学科卒業、1988年:名古屋大学工学部助手、1991年:名古屋大学工学部助教授、1999年:名古屋大学大学院工学研究科助教授、2002年:名古屋大学大学院工学研究科教授、2011年:名古屋大学大学院工学研究科副研究科長



パネリスト  
ムハンディキ ビクター  
MUHANDIKI Victor  
名古屋大学工学研究科  
NEXCO中日本寄附講座  
「インフラ技術開発・移転講座」教授

1993年:ナイロビ大学工学部土木工学専攻卒業、2001年:京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻博士後期課程修了、2001年:国際湖沼環境委員会調査研究科研究員、2004年:立命館大学理工学部環境システム工学科講師、2008年:名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻特任准教授

■ 申込先 整理の都合上、できる限りお名前を書いてメールまたはFAXにてお申し込み下さい。  
名古屋大学土木系教室50周年記念事業会幹事長 中村 光(E-mail:hikaru@nagoya-u.jp FAX:052-789-5690)